



信長と戦国武将ゆかりのまち



- スタート ↓630 m
- ① 奴野城跡 (西方寺) ↓420 m
- ② 不動院 ↓80 m
- ③ 雲居寺 ↓410 m
- ④ 成信坊 ↓210 m
- ⑤ 清正公社 ↓450 m
- ⑥ 津島神社 ↓320 m
- ⑦ 堀田家住宅 ↓170 m
- ⑧ 御旅所 ↓540 m
- ⑨ 妙延寺 ↓260 m
- ⑩ 弘浄寺 ↓620 m
- ゴール 全長約 4110 m

戦国武将が寄進した社殿



6-1 秀吉が寄進した樺門



6-2 松平忠吉が寄進した本殿



6-3 秀頼が寄進した南門

今の津島からは想像もできないでしょうが、中世後半には津島に川湊があり、伊勢と尾張をつなぐ交通の要衝、尾張最大の商業都市でした。勝幡城を拠点とする織田弾正忠家(信長の家系)は津島を支配下に置き、信長の代になって津島の経済力を背景に尾張国を統一、さらに全国制覇を目指していったのでした。津島衆の中には織田家家臣となる者や戦国武将になる者も現れました。津島のまちに残る信長や戦国武将たちゆかりの地を訪ねるコースです。

オススメ 戦国武将好きに贈る

1 奴野城跡 (西方寺)

大橋三河守定省の居城があった所です。大橋氏は津島の四家七苗字と呼ばれる土着の一つです。

2 不動院

織田家の接待所(迎賓館)。宗長手記の大永6(1526)年の項に記載されています。

3 雲居寺

織田信長の家臣服部小平太(一忠)ゆかりの寺です。小平太は桶狭間の合戦で今川義元が一番槍を付ける奮戦を見せました。後に豊臣秀次の家臣として伊勢松坂城主となりましたが、秀次失脚に伴い連座で切腹となりました。

4 成信坊

この寺の住職が反信長一向一揆の指導者、本願寺教如上人の身代わりになったことにより津島御坊の称号が授けられました。

5 清正公社

清正公社は加藤清正を祀っています。幼少の清正が住んでいた叔父の家があった場所に明治18年、社が建てられました。

6 津島神社

かつては牛頭天王を祀り、津島天王社と呼ばれました。信長が氏神と仰いだ神社で、戦国武将の崇敬も篤く、豊臣秀吉が樺門を、秀頼が南門を、松平忠吉の妻が本殿を寄進しました。

8 御旅所

神様がお祭をご覧になる場所。旧天王橋。ここにかけた橋の上で信長が天王祭をご覧になられたことが『大祭役場車記録』に書かれています。

9 妙延寺

清正手習いの寺子屋。清正が叔父の家に住んでいた幼少の頃に読み書き、手習いを習った寺です。境内には清正が双紙を掛けたと伝わる松が昭和初期までありました。

10 弘浄寺

長島一向一揆の際、信長が布陣した場所と伝えられています。【信長公記】など信長にまつわる史料にも、長島一向一揆との戦いで津島に陣を敷いたと書かれています。

作成：小路めぐりマップ策定部

杉村武治	竹島貞男	丹下宏和	加藤三紀夫
山岡鉄増	耕井敏子	大橋忠彦	恒川一三
岩崎勝明	橋本達夫	水谷亮介	側島清仁

2 清正ゆかりの津島～お菓子とお団子を添えて～

オススメ 歴史大好き♡ スイーツ大好き♡ 誰でもOK!!




- スタート ↓400m
- ①らく楽菓子舗 ↓370m
- ②糀屋 ↓150m
- ③清正公社 ↓70m
- ④三木屋 ↓240m
- ⑤赤のれん ↓20m
- ⑥あかだ・くつわ ↓330m
- ⑦柿屋饅頭 ↓210m
- ⑧茶の間 ↓50m
- ⑨桔梗屋 ↓30m
- ⑩伊勢屋茶舗 ↓190m
- ⑪津島饅頭 ↓50m
- ⑫わたよ菓子舗 ↓60m
- ⑬あけぼの ↓60m
- ⑭妙延寺 ↓670m
- ゴール 全長約 2900 m

加藤清正は永禄5 (1562) 年に尾張国愛智郷中村 (現在の名古屋市 中村区) に加藤清忠・伊都の子として生まれました。幼くして父親を亡くした清正は、津島で鍛冶屋をしていた叔父の家で母と共に幼少期を過ごしました。津島には清正の才覚を偲ばせる逸話が語り継がれています。幼少期の清正が歩いたであろう津島の小路を甘味を味わいながら散策してみよう!!

作成：小路めぐりマップ策定部
田中義博 村瀬ゆかり 加賀淳子 楠木美千代 耕井敏子 大橋忠彦
恒川一三 岩崎勝明 橋本達夫

1 らく楽菓子舗
天王通りにお菓子屋さん。蓮根ういろやネギクッキーなど郷土色の強いお菓子もあります。
【定休日】水曜日

2 糀屋の甘酒
甘酒×ヨーグルト、甘酒×牛乳 etc おすすめの飲み方、食べ方を教えてもらえます。
【定休日】日曜日



3 清正公社
加藤清正が幼少の頃住んでいた叔父の家があったと伝わる地に清正の徳を偲んで社が建てられました。加藤清正公遺跡の碑 (津島市祖先の遺産) があります。




4 三木屋
天王通りの餅菓子屋さん。草餅が名物です。喫茶スペースもあります。絵本作家伊藤秀男氏の絵もあります。
【定休日】月曜日

5 赤のれん
門前にあるしょうゆ味のみたらし団子屋さん。炭火で焼いた団子は絶品です。
【定休日】火曜日

6 あかだ・くつわ
津島名物。古くから津島の土産物として知られる素材な味の銘菓。厄除けの由来もあるお菓子で、米の粉を油で揚げただけのとても固くシンプルな味です。門前の3店舗で製造販売しています。
【定休日】あかだ屋清七：第2,4火曜日
総本家角政：無休
松儀高店：不定休



7 柿屋饅頭
橋詰町にある和菓子屋さん。名物柿屋饅頭 (酒蒸しまんじゅう) が屋号になっています。まつり最中もあります。
【定休日】不定休



8 Season Café 茶の間
橋詰三叉路の向かいにある門の奥にあるカフェ。毎月1〜7日、藤まつり・天王祭など行事期間は営業しています。

9 桔梗屋
本町筋と横町の角にあるお茶屋さん (お茶販売店)。お茶をひいていると、お茶の良い香りが…。
【定休日】月曜日

10 伊勢屋茶舗
横町のお茶屋さん (お茶販売店)。店内に二畳敷のお茶室があります。
【定休日】月曜日 (不定休)



11 津島饅頭
本町三丁目にある和菓子屋さん。
【定休日】月曜日

12 わたよ菓子舗
本町四丁目にある和菓子屋さん。季節ごとの和菓子があります。お茶会御用達!!
【定休日】月曜日



13 あけぼの
本町三丁目にあるお茶屋さん (お茶販売店)。ふじフレーバーのソフトクリームがあります。藤の花の香りが感じられるハードタイプのソフトクリームです。
【定休日】日曜日

清正手習いの寺子屋。境内には清正が双紙を掛けたと伝わる松が昭和初期まであり、現在の松は2代目です。

14 妙延寺



文化を
あぐる

コース
3 お茶室ロード ～茶室のあるまちの町人文化～

オススメ 町並み好き



- スタート
↓830 m
- ① 瑞泉寺 ↓340 m
 - ② 吉村人形店 ↓50 m
 - ③ 伊勢屋茶舗 ↓470 m
 - ④ 堀田家住宅 ↓100 m
 - ⑤ 尾張津島観光センター ↓200 m
 - ⑥ 津島神社 ↓360 m
 - ⑦ 三木屋 ↓250 m
 - ⑧ 観光交流センター
- ゴール
全長約 2600 m

津島には歴史的な風情のある町家が連なる町並みがあります。本町筋はその代表です。町家の多くは切妻平入りの瓦葺、通りに面した部分の2階を塗籠(ぬりごめ)にはせず、1、2階共に格子を入れています。防火のために袖壁(袖うだつともいう。)を付けている家もあります。家の構造は通り庭を南側に取り、部屋が1列または2列に並ぶ形式が基本です。通り庭をぬけたその奥に中庭、蔵を配置するため、通りから蔵が見えないことも特徴と言えるでしょう。さらに、敷地に余裕のある家では独立した茶室が設けていますが、多くは建物の内部に小間や広間の茶室を設えています。それも1軒の町家で複数の茶室を設えている点が津島ならではの特徴です。本町筋は茶室を備えている町家が多いことからお茶室ロードと呼ぶことがあります。この地域は日常的にお茶を嗜む文化が根付いています。それゆえ町家にもお茶室の設えを取り入れたのでしょう。津島のまちの人々の文化の粋は町家の外観にも見て取れます。お茶室は家の中のプライベート空間なので公開されていませんが、通りに面した外観はご覧いただくことができます。津島の町並みは町家で暮らし続ける人々の心意気によって守られています。

作成：小路めぐりマップ策定部 市川寛夫 山口ゆづみ 加藤真弓 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三 岩崎勝明 橋本達夫 横井ざつと

1 瑞泉寺

良王君ゆかりのお寺です。津島神社の神主を務めた水室長翁ゆかりの茶室「椿園」があります。茶室は非公開です。

2 吉村人形店

本町筋の人形屋さん。店奥に一六庵という茶室があります。お茶室の見学については、電話(0567-26-2947)へお問合せください。【定休日】月曜日

3 伊勢屋茶舗

横町にあるお茶屋さん(お茶販売店)。店内に二畳敷の茶室があります。店内でお抹茶を挽いています。【定休日】月曜日(不定休)

4 堀田家住宅

江戸時代の町家建築で、国の重要文化財です。久田宗夢設計の茶室、庭があります。観覧日時：土・日・祝日10:00～15:00、観覧料：300円、平日は5名以上で要予約。【問合せ】社会教育課0567-24-1111

5 尾張津島観光センター

津島神社南鳥居の脇にあります。抹茶を点てる体験ができます。開館時間：10:00～16:00(10月1日～3月31日は15:00まで)【定休日】木曜日

6 津島神社(参集所)

伊藤才兵衛さん(陶芸家)が寄贈された茶室があります。茶室は非公開です。

7 三木屋

天王通りにある餅菓子屋さん。店内でお菓子と飲み物(抹茶やコーヒーなど)のセットをいただくことができます。【定休日】月曜日

8 観光交流センター

蔵の内部を改造して設えた茶室「吉法庵」があります。【休館日】月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日



コース
4

江戸時代の蔵と井戸の旅

オススメ

どなたでも



- スタート
↓1000 m
- ① 上切の井戸
↓600 m
- ② 津島神社
↓320 m
- ③ 堀田家住宅
↓450 m
- ④ 堤下神社の井戸
↓60 m
- ⑤ 茶の間の蔵
↓55 m
- ⑥ 坂口町の井戸
↓140 m
- ⑦ 町家の蔵
↓80 m
- ⑧ 小之座通り(蔵の道)
↓180 m
- ⑨ 観光交流センター
ゴール
全長約 2885 m

津島は津島神社の門前町として、また湊町として多くのヒト・モノ・情報が集まり、農村や城下町と異なる町衆文化が成立しました。豊かな商人・豪農があらわれ、財を蓄えそれぞれの家が蔵を建てました。また彼らのもとで働く人々が集まり、津島は活気を呈しました。人口が増えれば水を確保するために井戸が掘られ、木曾川の伏流水が津島人を育みました。今でも残るまちの名残を、あなたも蔵の所有者になった気持ちで思いを巡らせてはいかがですか…?

6 坂口町の井戸

坂口町(現在の町3丁目)にある共同井戸でした。土井戸として昭和10年頃までは使用されていました。



7 町家の蔵



現在の町筋と裏手側には高低差があり、町筋に面している家々の蔵にはお城のような石垣があります。

1 上切の井戸



上切と呼ばれた地域(現在の町1丁目)にある共同井戸でした。天王祭の舟や屋台を連結するわら縄を編む際、この井戸の水が打ち水に使用されていました。

2 津島神社



津島神社は明治の初めまでは津島天王社と呼ばれていました。疫病厄難除けにご利益のある神社です。

3 堀田家住宅



江戸時代の町家建築で国の重要文化財です。尾張地方の豪商の暮らしを伝えます。
観覧日時: 土・日・祝日10:00~15:00、観覧料: 300円、平日は5名以上で要予約。
【問合せ】
社会教育課0567-24-1111

4 堤下神社の井戸



堤下と呼ばれた地域(現在の町2丁目)の共同井戸でした。かつて津島のまちと津島神社(津島天王社)との間には天王川が流れており、堤下神社は対岸の天王社の通所所でした。この井戸はその際の御手洗の井戸としても使用されました。

5 茶の間の蔵

5-1 戎徳呉服店の蔵

江戸時代から昭和初期まで栄えた呉服店の店蔵です。津島では珍しく街道沿いに蔵があります。

5-2 蔵ギャラリーつづら

SeasonCafe茶の間に隣接する蔵ギャラリーつづら。明治時代の蔵をレンタルスペースとして開放されています。作品展、演奏会、イベントなどの利用が可能です。



8 小之座通り(蔵の道)



津島では珍しく「蔵並み」が見えることから、近年「蔵の道」とも呼ばれるようになりました。蔵の石垣には「打ち出の小づち」など縁起物を模した石がさりげなく配置されています。当時の職人の技量と心遣いがうかがえます。



9 観光交流センター



かつての津島信用金庫の建物を再利用したものです。敷地の奥に内部を茶室に改造した「蔵」があります。
【休館日】月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日

文化めぐり 5 尾張津島 高いのまちめぐり

オススメ 津島の商家を知りたい人



- スタート ↓130m
 - ①川魚屋(魚光) ↓220m
 - ②川魚屋(魚良) ↓210m
 - ③旧麩屋町 ↓370m
 - ④銀行跡 ↓70m
 - ⑤長珍酒造 ↓360m
 - ⑥津島湊跡 ↓450m
 - ⑦あかだ・くつわとみたらし ↓90m
 - ⑧津島神社 ↓470m
 - ⑨呉服屋 ↓55m
 - ⑩糀屋 ↓20m
 - ⑪銀行跡
 - ゴール
- 全長約 2445 m

津島は商業の盛んなまちでした。それは一つに、牛頭天王信仰の中心地「津島天王社(津島神社)」の門前町であること、一つに木曾川の支流天王川の川湊であったこと。そして最後に近代以降毛織物産業の一大集積地であったことによります。時代とともに姿を変えた部分もありますが、今なお「高いのまち」津島を感じることができる場所があります。ここに載せたのはそのほんの一例。小林毛織、笹直リード製作所などの毛織物の工場、お茶販売店、和菓子店、雑貨屋…、じっくりと歩いてあなただけの「高いのまち津島」を見つけみてはいかがですか？

7 あかだ・くつわとみたらし

あかだ・くつわ
津島名物。古くから津島の土産物として知られる素材な味わいの銘菓。厄除けの由来もあるお菓子で、米の粉を油で揚げただけのとも固くシンプルな味です。門前の3店舗で製造販売しています。
【定休日】あかだ屋清七：第2、4水曜日
松儀商店：不定休、総本家角政：無休

みたらし
門前にある赤のれん。炭火で焼いたしょうゆ味のみたらし団子は絶品です。
【定休日】火曜日

作成：小路めぐりマップ策定部
村上貴彦 安達友彦 尾崎ゆり 小森清志 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三
岩崎勝明 橋本建夫

1 川魚屋(魚光)

津島の名物もろこを提供するお店です。店頭に陳列されている商品に目を奪われます。
【定休日】月曜日

2 川魚屋(魚良)

水郷津島の名物である川魚を扱うお店。うなぎやなまずの香りに誘われます。敵策前に予約しておくのがオススメです。
【定休日】月曜日

3 旧麩屋町

現在の津島市池麩町は、池之堂と麩屋町が合わさって出来た町です。麩屋町はかつて名物だった「津島麩」のお店から名づけられました。

6 津島湊跡

津島はかつて木曾川の支流天王川の湊町でした。現在の天王川公園が、まさに水運の行われた津島湊でありこの周辺には船の運航を司る船番所がありました。

4 銀行跡

商業のまちだった津島は銀行が多かったです。この建物は旧東海銀行の前身「愛知銀行(現在もある同名の銀行とは別)」の津島支店でした。鉄筋コンクリート造の銀行建築が普及する以前の重厚な造りになっています。

5 長珍酒造

本町三丁目にあるまちの酒蔵です。直接お酒の販売や酒造見学はしていませんが、虫籠格子(むしごろうし)を含め立派な造りの町家や酒蔵を通りから眺めることができます。

11 銀行跡(観光交流センター)

商業のまち津島に沢山あった銀行の一つで、昭和4(1929)年に建てられた鉄筋コンクリート造2階建ての銀行建築です。
【休館日】月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日

8 津島神社

津島は津島湊のあるまちとして、疫病厄難除けにご利益のある津島神社の門前町として栄えました。かつて津島詣での土産物にうちわがありました。うちわは現在の津島市北町のあたりで作られていました。

9 呉服屋

津島には呉服屋さんがたくさんあります。
【定休日】月曜日

10 糀屋

塩麹や甘酒のもと、乾物など発酵食品を取り扱うお店です。本町筋の古い町並みの中で、昔から体に良い食品を製造し、販売しています。
【定休日】日曜日・祝日

10 糀屋



コース
6

尾張津島から世界へ 津島と世界との接点を探る旅

オススメ

歴史好き淑女



- スタート ↓240m
- ① 十王堂 ↓440m
- ② ヨネ・ノグチ生家 ↓830m
- ③ 杉浦兼松博士碑 ↓160m
- ④ 片岡春吉像 ↓130m
- ⑤ ヨネ・ノグチ銅像 ↓390m
- ⑥ 堀田家住宅 ↓100m
- ⑦ 津島神社南鳥居 ↓170m
- ⑧ 津島神社蕃堀
- ゴール
- 全長約 2460 m

愛知県尾張地方のまち津島。世界と津島の接点と言われてもピンと来ないかもしれません。では、探しましょう！世界的な活躍をした津島の偉人の功績や世界の文化と融合したスポットなど、湊町津島に残る世界との接点を、Let's discover！ここには載っていない世界との接点も探してみても……？

5 ヨネ・ノグチ銅像



世界的詩人野口米次郎の銅像です。「ハンサムボーイ」と言われた彼の姿が偲べます。台座には彼の代表作「From the Eastern Sea」の一节が刻まれています。

1 十王堂



津島駅から今市場町の十王堂に向かう通りをハーキュリーズ通りと言います。昭和56(1981)年津島市と姉妹都市になったアメリカ合衆国、カリフォルニア州、ハーキュリーズ市にちなんで名づけられました。十王堂は閻魔大王をはじめとした十王をお祀りしています。

3 杉浦兼松博士碑



明治22年現在の津島市称宜町に生まれた、世界的ながん研究者杉浦兼松博士の顕彰碑です。若くして渡米し、当時はまだ地味な分野であった「がん研究」の発展に寄与しました。顕彰碑は藤棚の側にあります。

6 堀田家住宅



堀田家住宅の中には荒神様という霊の神様が祀られています。荒神様は民間信仰の中で大切にされてきましたが、仏教の三宝荒神とも同一視されるなど複雑な由緒を持ちます。外国からやってきた仏教が、日本の民間信仰と習合していく過程を思わせます。

観覧日時：土・日・祝日10:00～15:00
観覧料：300円、平日は5名以上で予約
【問合せ】社会教育課 0567-24-1111

作成：小路めぐりマップ策定部
中元明孝 鬼頭弘子 池田富美 耕井敏子
大橋忠彦 恒川一三 岩崎勝明 橋本達夫
内田克哉

2 ヨネ・ノグチ生家

明治8年、津島に生まれた詩人野口米次郎の生家です。慶應義塾大学に進学後渡米し、米英の詩壇に名を轟かせ「世界のヨネ・ノグチ」として知られました。アメリカ人のシオニー・ギルモアとの間の子「イサム・ノグチ」は芸術家として知られます。



4 片岡春吉像



片岡春吉は、片岡毛織の創業者として尾張西部地方の毛織物産業の発展に寄与しました。津島で織られた毛織物は海外に出荷され、津島は毛織物でにぎわいました。春吉の遺徳を讃えるため天王川公園に銅像を建立しました。

7 津島神社南鳥居

津島神社の南大鳥居は昭和3年に昭和天皇御大典を記念して、当地出身のアメリカ移民有志の寄進で建てられました。また鳥居の傍らには「御大典記念 感恩報国」の碑が建てられました。



8 津島神社蕃堀

津島神社はこの土地特有の「尾張造」と言われる左右対称の建築様式で建てられています。蕃堀は尾張造独特の建築様式であり、邪気を防ぐ意味があると言われています。アジアの各地域にも蕃堀に似たものがあり、神仏習合の津島天社に世界とのつながりがあるのでは…とロマンを掻き立てられます。



町衆の生活 津島の世間遺産



津島の
リピーター向け
オススメ



- スタート ↓590m
- ①かくれたぬき ↓350m
- ②昔ながらの小路 ↓150m
- ③上・下街道(本町筋) ↓130m
- ④成信坊 ↓80m
- ⑤観光交流センター ↓140m
- ⑥道標(津島神社参宮道) ↓130m
- ⑦小之座通り(家の道) 蔵石垣 ↓160m
- ⑧お茶屋(お茶販売店) ↓70m
- ⑨笹場車の見門 ↓90m
- ⑩和菓子屋 ↓80m
- ⑪今車の見門 ↓60m
- ⑫大土社 ↓300m
- ⑬十王堂 ↓240m
- ゴール 全長約 2570 m

かつて天王文化塾が主催で、津島の世間遺産を公募しました。世間遺産とは「いつまでも変わらないと思っていた景色や建物がどんどんなくなっていく。こんな中で、町の中にいつまでもとどめておきたいもの、思わず人に伝えたいもの」を意味します。そんな津島の世間遺産にさらに手を加え、津島を訪れた人にさらに隠れた魅力を知ってもらおうコースです。今も息づくありのままの津島の姿から、昔の津島の姿まで、想像力を膨らませて歩いてみましょう!

どこにあるか 見つけてネ!!

※ 本町筋 古い町並みの残る通り 津島の旧市街地を構成

※ 天王川公園 天王祭や藤まつりの 舞台である憩いの公園



7 蔵石垣の 縁起物石組み

小之座通り沿いは蔵が多く立ち並んでいるので、近年「蔵の道」の愛称でも呼ばれています。蔵の石垣は、「打ち出の小づち」、「ひょうたん」、「扇」など縁起物に模した石がざりげなく組まれています。ぜひ見つけてください!

作成：小路めぐりマップ策定部
NORITAKA KEIKO KAORI
耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三
岩崎勝明 橋本達夫

1 かくれたぬき

昔はお酒を買うときは、徳利を持って買いました。この大きな石造りのたぬきもお酒を買いに行くのでしょうか。地図をたよりに探してみてください。

3 上・下街道(本町筋)

本町筋は津島上街道・下街道とも呼ばれ、街道筋に古い町並みが残ります。上街道は勝幡・甚目寺を経由して名古屋へ、下街道は佐屋街道と繋がります。

5 観光交流センター

昭和4(1929)年に建てられた鉄筋コンクリート造2階建の銀行建築です。【休館日】月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日

8 ちょっと古風なお茶屋さん

津島は昔から茶道が盛んでした。この地域は日常的にお茶を飲む文化が根付いています。津島のお茶屋さん(お茶販売店)は店内でお抹茶を挽いています。桔梗屋【定休日】月曜日

10 抹茶にかかせない和菓子

津島名物の季節のお饅頭です。ぜひ食べてみてください。津島饅頭【定休日】月曜日

12 大土社のおもかるさん

大土社には本町筋にあった石神様が合祀されています。その縁で、境内裏にひっそりと「おもかるさん」と呼ばれる石(陽石)があります。ざすれば子宝に恵まれると伝えられています。

2 昔ながらの 小路

江戸時代中期ごろまで、この道の西側は天王川であり、この道は堤防でした。

4 成信坊

津島で一番大きいお寺です。本堂の前には石白が敷を詰められ、独特の風景を見せてくれます。戦国時代の長島一向一揆で、この寺の住職が本願寺教如上人の身代わりになったと伝えられています。

6 道標「津島神社参宮道」

津島神社参宮道を示す石碑です。また、ここを基点に津島上街道・下街道に分岐します。神社の方向を矢印ではなく手形で示している珍しい石碑です。

9 笹場車の見門

尾張津島天王祭に各車から児が出ます。「神の子」児が祭りの時に出るときに使われるのが見門です。この見門は笹場車の児が通る見門です。

11 今車の見門

尾張津島天王祭に各車から児が出ます。「神の子」児が祭りの時に出るときに使われるのが見門です。この見門は今車の児が通る見門です。

13 十王堂

今市場町の十王堂は、異界の裁判官閻魔大王に代表される十王とお地藏様をお祀りしています。十王堂はまちの人によって守られています。



コース
8

天王祭を支える町内とご祭神



- スタート ↓760m
- ①道標 (津島神社参宮道) ↓50m
- ②斎竹 ↓70m
- ③町家 ↓100m
- ④⑤⑥斎竹 ↓190m
- ⑦瑞泉寺の稚児門 ↓200m
- ⑧車河戸 ↓120m
- ⑨児が歩くルート ↓20m
- ⑩⑪斎竹 ↓670m
- ⑫津島神社楼門 ↓500m
- ⑬上切の井戸 ↓100m
- ⑭市神社 ↓120m
- 観光交流センター
- ゴール 全長約 2900 m

尾張津島天王祭は、約600年の歴史がある津島神社の祭礼です。7月第4土曜日に宵祭、その翌日に朝祭が行われ、神社の神事を含めると90日間にわたって祭行事が行われます。そのうちの車祭舟行事とは、津島五車と呼ばれる米之座・堤下(とうげ)・筏場・今市場・下橋、そして市江を加えた6艘の祭舟で展開される行事のことです。祭舟は「車祭舟(だんじりぶね)」と呼ばれます。宵祭は津島五車が1年の日教の教の提灯を半球状に形作る巻幕舟、翌朝の朝祭は能の演目を表した置物を屋台に飾る車祭舟に模様替えして、市江車を先頭に6艘が漕ぎ進みます。「尾張津島天王祭の車祭舟行事」は国の無形民俗文化財に指定されており、平成28年12月1日に「山・鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコの無形文化遺産に登録されました。

作成：小路めぐりマップ策定部
大橋忠彦 佐藤恵 耕井敏子
恒川一三 岩崎勝明 橋本建夫
村松勇治 三輪直樹

オススメ 天王祭を知りたい人

① 道標 [津島神社参宮道]

尾張津島天王祭は本町筋(津島街道)沿いのまち、旧津島五ヶ村によって行われてきた祭です。かつての本町筋は津島神社の参詣者や旅人などに使われていました。津島神社参宮道を示す石碑で、ここを基点に津島街道は上下に分岐します。

② 斎竹

天王祭時に津島五ヶ村を清める斎竹が町境に建てられます。これは「堤下」「筏場」の境の斎竹です。

③ 町家

「児門」のある町家です。尾張津島天王祭に祭を担う各町内からお見さんが出ます。「神の子」お見さんが祭の時に出るとともに使われるのが児門です。この児門は筏場車の児が通る児門です。

④⑤⑥ 斎竹

天王祭時に津島五ヶ村を清める斎竹が町境に建てられます。これは「筏場」「今市場」「下橋」の境の斎竹です。

⑦ 瑞泉寺の稚児門

瑞泉寺にある門で、「稚児門」の扁額がかかっています。江戸時代中期まで寺の南隣まで車河戸が広がっていて、この門の辺りから小舟に乗り祭礼の本船に向かったことから名付けられたと伝えられているそうです。

⑧ 車河戸

天王川公園の東側にある車河戸という入り江は、祭河戸とも呼ばれ、尾張津島天王祭の船支度や宵祭・朝祭の時に神社の赤舟のお迎えを待つ場所などまさしく祭りの舞台となる場所です。普段は天王祭の舟に組まれる屋形と船が置かれています。

⑨ 児が歩くルート

尾張津島天王祭の時に津島五車の各車屋さんから車河戸へ、昔からのしきりに沿って異なる道を通って向かいます。

⑩⑪ 斎竹

昔から天王祭時に津島五ヶ村を清めるため町境に斎竹が建てられます。いつの頃からか「車河戸」にも斎竹が建てられるようになりました。車祭舟の準備を行う場所を清浄に保つ意味で建てることになったのでしょうか。

⑬ 上切の井戸

上切と呼ばれた地域(現在の本町1丁目辺り)にある共同井戸でした。天王祭の舟や屋台を連結するわら縄を編む際、この井戸の水が打ち水に使用されていました。

⑭ 市神社

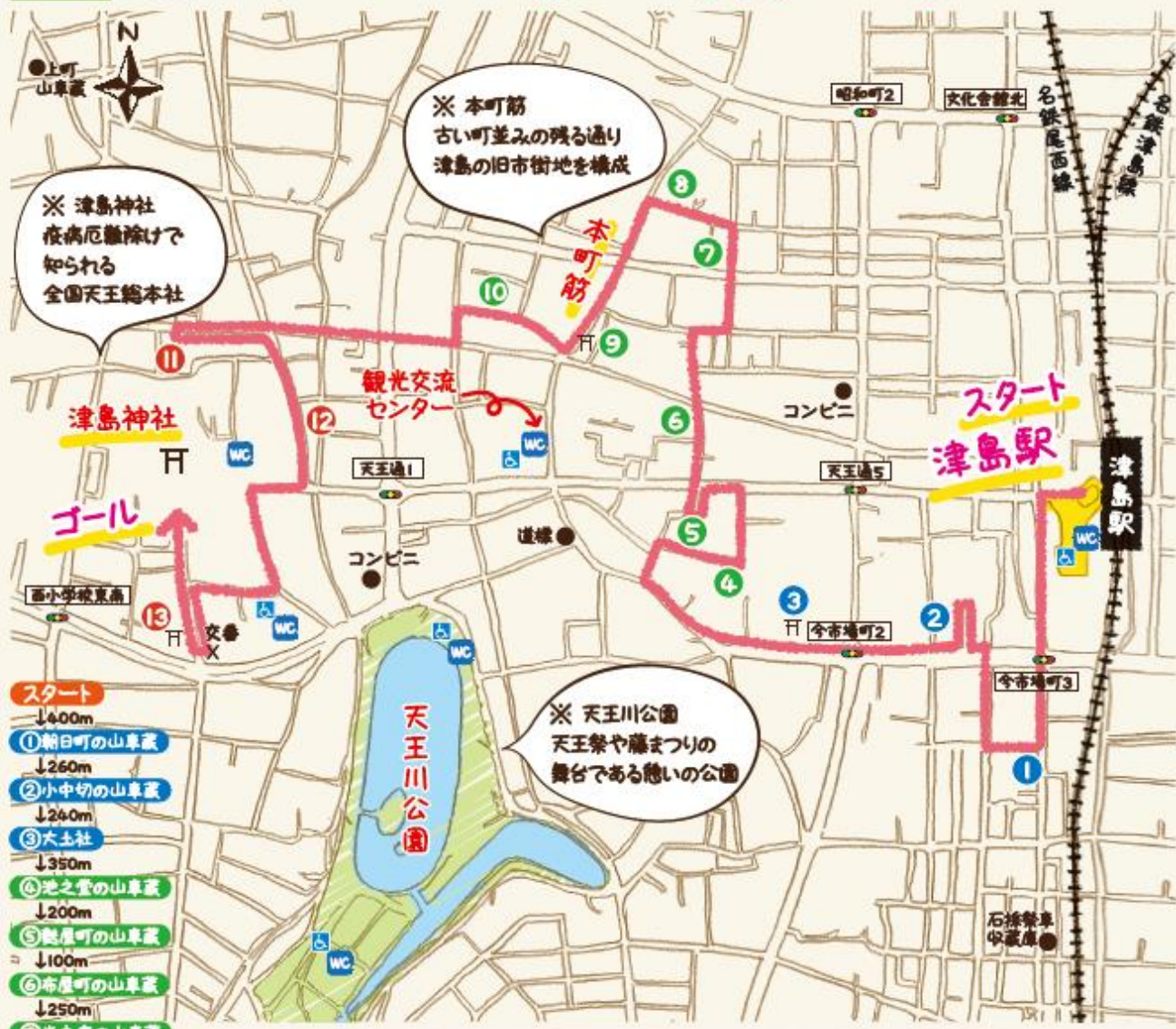
津島神社の境外末社。尾張津島天王祭の神事の中で重要な「神籠放流神事」の時に神職が立神祭を行う場所です。神籠放流神事は朝祭が終わった日の深夜、神職のみで密やかに行われ、まちの人々はこの日は早く寝るようにと伝えられています。現在社務所は米車のお囃子の練習場所等にも使用されています。

⑫ 津島神社楼門

児打廻し、神輿渡御・還御の時に楼門をくぐります。

コース9 深い!? 尾張津島秋まつりの山車蔵ツアー

オススメ 山車祭が好きな人!



- スタート ↓400m
- ① 朝日町の山車蔵 ↓260m
- ② 小中切の山車蔵 ↓240m
- ③ 大土社 ↓350m
- ④ 池之堂の山車蔵 ↓200m
- ⑤ 麩屋町の山車蔵 ↓100m
- ⑥ 布屋町の山車蔵 ↓250m
- ⑦ 米之座の山車蔵 ↓130m
- ⑧ 北町の山車蔵 ↓240m
- ⑨ 市神社 ↓120m
- ⑩ 高屋敷の山車蔵 ↓390m
- ⑪ 中之町の山車蔵 ↓230m
- ⑫ 馬場町の山車蔵 ↓420m
- ⑬ 居森社 ↓170m
- 津島神社
- ゴール
全長約 3500 m

毎年10月第1日曜日と前日の土曜日に開催される尾張津島秋まつりは、市内各所で山車、石搦祭車、神楽、子供獅子が出され、まちじゅうで祭が行われます。かつてそれぞれの地域で行われていたそれぞれの祭を大正時代津島神社の国幣小社昇格を記念して、一つの祭としたものです。

これは尾張津島秋まつりで人々を魅了し続ける山車が眠る山車蔵を巡る健脚家向けのツアー。普段は閉まっている山車蔵ですが、まちを歩くだけでもそれぞれの祭の担い手の雰囲気を楽しむことができます。また、祭の時期には実際に山車を見たり、お囃子が聞けるかも……?

作成：小路めぐりマップ策定部
伊勢由得 沢田圭一 徳田由美江 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三 岩崎陽明
橋本建夫 宮田時司

「今市場祭」尾張津島秋まつりの山車祭を構成する一つ、今市場祭は今市場町の町内によって行われる祭です。産土神の大土社の祭礼として行われています。

- ① 朝日町の山車蔵 ② 小中切の山車蔵 ③ 大土社



「七切祭」尾張津島秋まつりの山車祭を構成する一つ、七切祭は津島の七切と呼ばれる七つの町内によって行われる祭です。産土神の市神祭の祭礼として行われています。

- ④ 池之堂の山車蔵 ⑤ 麩屋町の山車蔵 ⑥ 布屋町の山車蔵



- ⑦ 米之座の山車蔵 ⑧ 北町の山車蔵 ⑨ 市神社 ⑩ 高屋敷の山車蔵



「向島祭」尾張津島秋まつりの山車祭を構成する一つ、向島祭はかつての津島神社の神領向島と呼ばれる町内によって行われる祭です。産土神の居森社の祭礼として行われています。

- ⑪ 中之町の山車蔵 ⑫ 馬場町の山車蔵 ⑬ 居森社



※少し遠いですが、もう一つ上町山車蔵があります。

他にも津島には、ここに載っていない山車蔵が…!

コース10 津島四大まつり舞台めぐり

オススメ 祭好きの人 健脚な人



歴史ある神事三祭「冬の『御開扉(おみと)』、夏の『尾張津島天王祭』、秋の『尾張津島秋まつり』と1980年代から行われている尾張津島藤まつりの、四季を楽しむ「津島の四大まつり」の舞台をめぐります。四季折々の魅力あふれるまち津島をぜひお楽しみください!

※それぞれのまつりの開催日を記しましたが、その年の暦やそれぞれのまつりの事情により日程・時間が変わる場合がありますので、マップを参考にまつりをご覧になる場合は事前にご確認の上お越しください。

① 堤下神社(井戸)

かつて津島のまちと津島神社(津島天王社)との間には天王川が流れており、堤下神社は川の向こうの天王社の遷葬所でした。境内には井戸があります。

② 池須交差点(天王通1丁目交差点)

かつては天王川の川底でした。池須交差点と呼ばれるこの場所では、尾張津島秋まつりの本祭の夜、提灯を灯した七切・向島・今市場の山車が北に並んで一斉に車切を披露します。

【日時】尾張津島秋まつりの夜(10月第1日曜日)

③ 津島神社楼門

「開扉祭(おみと)」の舞台になっています。津島神社の楼門を、燃える大松明がくぐる姿は勇壮、圧巻です。

【日時】旧暦2月1日相当地の夜

④ 津島神社拜殿

尾張津島天王祭の宵祭の前夜に行われる神事「児打廻し」の舞台です。祭を担う各町内から、車河戸を経由した児行列が津島神社に参拝します。拜殿前に建てられた柱を打ち鳴らしながらその周りを3回廻ります。

【日時】宵祭前夜(7月第4土曜日の前夜)

⑤ 居森社

尾張津島秋まつりの山車のうち、居森社を産土神とする向島の山車(馬場町、中之町、上町(上之町・江川町)の3地区)が集まります。からくりや車切を披露します。

【日時】尾張津島秋まつりの初日

⑥ 御旅所(天王橋跡)

神様がお祭をご覧になる場所。旧天王橋。かつて織田信長は、ここを流れていた天王川に架かる天王橋の上から祭りを観覧したと伝えられています。

【日時】神輿渡御祭(7月第4土曜日の朝) 宵祭(7月第4土曜日の夜) 朝祭、神輿還御祭(宵祭の翌朝)

⑦ 藤棚

天王川公園の南側にある藤棚は、12種類114本の多彩な藤が5,034㎡に広がります。藤の開花する春には藤まつりが開催され、様々なイベントが行われます。

【日時】藤まつり(4月下旬~5月上旬ごろ)

⑧ 車河戸

天王川公園の東側にある車河戸という入り江は、尾張津島天王祭の船支度・宵祭の巻幕舟の提灯点灯や乗り込みの舞台です。普段は天王祭の舟に組まれる屋形と船が置かれています。

⑨ 瑞泉寺の稚児門

瑞泉寺にある門で、「稚児門」の高額がかかっています。江戸時代中期まで寺の南隣まで車河戸が広がっていて、この門の辺りから小船に乗り祭礼の本船に向かったことから名付けられたと伝えられているそうです。

⑩ 六角地蔵

六角形の燈籠型の地蔵堂で、六地蔵とも呼ばれています。昔ある家に盗賊が入った時、六人の僧侶に姿を変えて、盗賊を追い払ったとされ、まちの守り手として信仰を集めています。

⑪ 道路元標

津島の道路の起点・終点や主な通過点を表示する標識です。ここが津島の地図を作る際の中心点です。ぜひ見つけてください。

作成：小路めぐりマップ策定部
めぐみ、K やまもとけんじ
つついやすし 耕井敏子 大橋忠彦 恒川一三
岩崎勝明 橋本建夫

⑫ 坂口町の井戸

坂口町と呼ばれた地域(現在の本町3丁目辺り)にある共同井戸でした。坂口町は尾張津島天王祭を担う津島五ヶ村の一つ「筏場」の一部でした。

⑬ 道標(津島神社参宮道)

尾張津島天王祭は本町筋(津島街道)沿いのまち旧津島五ヶ村によって行われた祭です。津島神社参宮道を示す石碑で、津島上街道・下街道の合流点です。

⑭ 上切の井戸

上切と呼ばれた地域(現在の本町1丁目辺り)にある共同井戸でした。天王祭の舟や屋台を連結するわら縄を編む際、この井戸の水が打ち水に使用されていました。